

# ひまわりの絆プロジェクト

平成 23 年、京都府内で発生した交通事故で 4 歳の男の子が亡くなりました。

生前、男の子は幼稚園で育てていたひまわりの種を自宅に持ち帰っていました。ご両親は、男の子が生きていた証としてそのひまわりを大切に育てていました。

平成 25 年春、この交通事故を担当していた警察官が自宅を訪問したとき、ご両親から、「私たちの子供が生きていた証を残したい。このひまわりがあちらこちらで咲けば、この子もいろいろな所へ行けると思う。もう交通事故は嫌です」とそのひまわりの種を託されたそうです。

こうして、男の子が生きていた証を残したいと願うご両親の思いと交通事故根絶の強い願いが「ひまわりの種」となって引き継がれ、平成 27 年夏には京都府内の警察署、幼稚園、保育園、小中学校、指定自動車教習所、各地域等で「ひまわりの絆プロジェクト」として花を咲かせ、平成 28 年以降は京都府内だけでなく、全国各地で大輪の花を咲かせました。

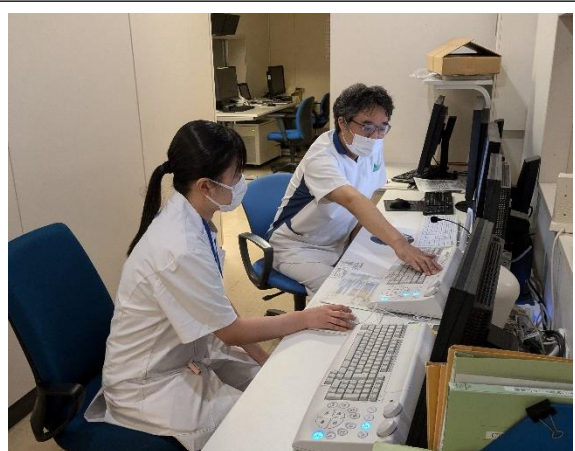
毎年、多くの方々により、ひまわりを育てることを通じて、命の大切さを学び、被害者支援への理解を深める取り組みが行われています。

今回、羽幌警察署よりこのひまわりの種を分けていただきました。7 月 3 日に職員有志により種まきが行われ、9 月には立派な大輪の花を咲かせることができました。



## 診療放射線技師、理学療法士を目指す学生、現場実習で技術を習得

8 月、診療放射線技師、理学療法士を目指す学生たちによる実習が行われました。診療放射線技師の実習では放射線機器の操作や画像診断技術の基本を学び、現場での実践的なスキルを磨きました。また、患者対応の重要性を理解し、安全で正確な検査を行うための知識も深めました。うち、一名は過去に当院のキッズセミナーに参加した経験があり、そこで診療放射線技師の仕事に興味を持ったようです。理学療法士の実習では、患者様のリハビリテーションに必要な運動療法や物理療法の基本技術を学び、患者様ごとの適切なケアの提供に取り組みました。指導者のもとで実際のケースに基づいたリハビリ計画を立てる経験を積み、コミュニケーションや対人スキルの重要性も理解しました。参加学生は指導者のサポートのもと、実際の医療現場での経験を積み、将来のキャリアに向けた重要なステップを踏み出しました。



春  
夏  
秋  
冬



編集

道立羽幌病院  
サービス向上委員会  
院外報部門  
第 75 号



## 接遇研修を実施

当院では、10月4日、職員を対象とした接遇研修を実施しました。今回の研修では「苦情・クレームの種類と内容」をテーマに患者様やご家族から寄せられる様々な意見や要望への理解を深めました。講師からは、苦情やクレームを分類し、それぞれに適した対応方法についての具体例が紹介され、参加者は実際のケーススタディを通して、適切なコミュニケーションスキルの重要性を再確認しました。病院としては、今後も患者様との信頼関係を築くため、接遇力の向上を図り、よりよい医療環境を提供していくことを目指しています。



## 緊急時に備える！病院で防火避難訓練を実施

先日、当院で防火避難訓練が実施され、火災発生時の適切な対応について確認しました。この訓練は火災発生時の迅速な対応を目的として定期的に行われており、今回は初動対応と避難誘導に重点が置かれました。非常ベルとともに訓練が開始され、職員は速やかに消火活動を行う一方で、他の職員は患者の安全な避難誘導にあたりました。訓練終了後には消防署員からの講評が行われ、避難の際の注意点や改善点が話し合われました。参加者からは「火災発生時の手順が明確になり、対応に自信が持てた」との声も上がりました。病院は今後も定期的な訓練を実施し、安全体制の強化を図ります。



### 地域連携室からお知らせ

地域連携室では患者相談窓口を開設しております。いろいろな相談ごとの窓口となり、内容によっては他部署と連携し対応させていただきます。また、レスパイト入院・フレイル外来の窓口にもなっています。お気軽にご相談ください。

電話 0164-62-6060(代表)

### 患者－医療者パートナーシップ宣言

当院では患者－医療者パートナーシップ宣言の強化に努めます

- 医療の主役は患者さまです。
- 私たち医療者は、患者様の病気の診断・検査・治療計画について十分な説明をします。
- その上で納得して医療をうけられるように支援いたします。
- わからないことは何でも、お気軽に相談してください。